

2019年12月16日

東京大学とプルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン、
「次世代の生命保険・サービスの開発に関する産学連携の共同研究」を開始

東京大学センター・オブ・イノベーション (COI) 自分で守る健康社会拠点
プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社

国立大学法人 東京大学（所在：東京都文京区、総長：五神 真、以下「東京大学」と、プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：谷川 武士、以下「プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン」）（*1）は、このたび、2019年10月から産学共同研究を開始しました。人生100年時代を迎え、長寿健康研究から得られる新たな指標を活用することで、従来の健康診断等からは把握できなかった自身の健康状態の把握や、個人に最適な次世代の生命保険・サービスの開発を行います。研究期間は2年間を予定しています。

ここ数年、各方面で健診データ、レセプトデータを解析した疾患のリスク予測モデルや未病指標の算出が行われ、生命保険にも活用の動きが見られます。この産学共同研究では、年齢、性別等の従来の指標に限らず、ヨーロッパの代表的な長寿福祉国でもあるスウェーデン、イタリアと行う共同研究から得られる新たな指標を活用して、次世代の生命保険・サービスを開発、提供することを目標とします。研究の主体は東京大学センター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会拠点」（*2）に参画している個別化保健医療講座の岸助教を中心に行います。

プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパンは、本研究による成果を踏まえ、傘下の生命保険会社において、個人が人生100年時代をより健やかに安心して暮らせるような生命保険・サービスの開発を目指します。また、東京大学は、少子高齢化に伴い発生する日本の社会的課題の解決に資する取り組みとして、次世代の生命保険の指標の探索を切り口に、「健康維持の自分ごと化」を国民一人一人が意識し、超高齢化社会を豊かに楽しく過ごせるように貢献していきます。

以上

*1

プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社について

プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社は、世界最大級の金融サービス機関である米国プルデンシャル・ファイナンシャルが日本で展開する生命保険会社3社〔プルデンシャル生命保険株式会社、ジブラルタ生命保険株式会社、PGF 生命（プルデンシャルジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社）〕の保険持株会社です。当社グループの生命保険会社は、営業社員や代理店を通じて個人、法人のお客さまに最適な保障と質の高いサービスの提供を目指しています。

*2

東京大学センター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会拠点」について

東京大学センター・オブ・イノベーションは、文部科学省および国立研究開発法人科学技術振興機構が主導する産学連携プログラムです。

「自分の健康は自分で守る、高齢者も社会を支える、新健康医療産業創出により国民総所得を増大する」という「自分で守る健康社会」実現のために、自治体・企業と連携して「健康維持の自分ごと化」を推進する社会を目指しています。